旭川会場

IR（統合型リゾート）に関する地域説明会（旭川会場） 質問・意見等

日　時　平成 31 年３月 20 日（水）　14:30～16:10
会　場　旭川市大雪クリスタルホール

■男性A

私は個人的にはＩＲ導入に関しては反対。

７日間で３回、連続する 28 日で 10 回という入場制限もあるが、一度カジノやギャンブルにはまってしまえば、将来有望な若者がギャンブル依存になり苦しむようなことも多々あるかと思う。カジノは大人の問題ではなく、未来あるこれからの若者の将来にも大きく関わることだと考える。ギャンブル依存によって家庭が崩壊すると、犠牲になるのはその家庭の子どもたちだと思う。高橋はるみ知事のマニフェストの中に、子どもの健やかな成長を地域社会全体で見守る社会づくりを進めるとある。若者が充実した生活と幸せを実感することのできる社会を築きます、ということも常日頃知事は仰っていた。この政策にもＩＲは反するのではないかなと思う。

海外のカジノ事業者の予測では、１兆円以上の投資を行って、それを回収するというような見込を立てているという報道を耳にしたこともある。１兆円の回収ということは、単純な計算で 10 万円負けるお客が１千万人に上ると。そういう日本の若者が出てきたりする恐れもあるし、ギャンブルに負けるということはある意味人の不幸を前提にした利益、経済ということで、これが北海道全体の活性化につながるとは私自身思えない。子ども達が心身ともに健やかに育ち、たくましく生きていく力を備えていくということができるように、教育の面からもＩＲには反対という考えを持っている。

■誘客担当局長

ギャンブル等依存症などの負の影響については、これまでの地域説明会でも、道議会でも本当に厳しいご意見をいただいているところ。我々も、ＩＲを設置することによってギャンブル依存症が増え、青少年に悪影響を及ぼすようなことはあってはならないことだと考えている。諸外国の例でも、シンガポールや米国ラスベガス、カナダなどでは、ＩＲを契機に、依存症対策について非常に高度な対策を始めている。なかなか難しいが、ＩＲをてこに全体の依存症対策を打っていけば、もちろんカジノを健全な娯楽として楽しんでいただくということはありうることかと考えられるし、既存のギャンブルについても、それぞれの事業者の自主規制につながる一つのきっかけになるのではと思う。

いずれにしても全体の依存症をいかに減らしていくか、それでこのカジノを健全な娯楽として、節度を持って楽しんでいただくかということ。例えば、年末の有馬記念で中山競馬場に１０万人の人が集まって、賑わいを見せているが、そのほとんどの方は健全に馬券を買って、健全にギャンブルを楽しんでおられるわけで、そこに対して疑問とか反対の声

はあまり起こっていない。そうした形で、カジノについてもいかに健全な中で一つの娯楽になっていくかということは重要なことだと認識しており、もし導入するのであればそうした部分もしっかり道として示していく、対策として示していくということが必要だと思うので、いただいた意見はしっかり受け止めさせていただく。

■男性B

ＩＲに関しては反対の人もいれば賛成の人もいるのかなと思うが、私は賛成の方。最初はカジノということが先行して、あまり良いイメージはなかったが、色々な方の話を聞くと、この統合型リゾートの中で、カジノは３％の床面積しか占めてなくて、あとの 97％はすごくいいことばかりで、北海道の観光客も増えたりもするし、雇用も増えるし、施設をつくるということは色んなお金がたくさん動くので、みんなが楽しくなるし、豊かになっていくのかなと。もちろん人口も増えるので、北海道も人口減少や、あちこちで過疎化と言われている中で、こうした大きな施設ができることで人口も増え、その分お金もたくさん北海道に落ちるので、いいことばかりなのではないかなと最近は思っている。

なので、カジノだけを見て、いいか悪いかというとちょっと難しいかと思うが、ＩＲ全体を見ると、たった３％のことであまりそこばかり考えると、97％のことがうまくいかなくなるのではないか。ＭＩＣＥについても、旭川もかなり力を入れているし、他の地域のＭＩＣＥ関係の人も各地で頑張っているから、ＭＩＣＥ誘致の面でも私としてはＩＲには賛成かなという意見がある。

■誘客担当局長

私どももプラスの効果、マイナスの影響の精緻な検討はまだしていないので、更にしっかり検討を深め、より観光や経済へのプラスの効果があり、地域にとってふさわしいものをつくると。そういったものをコンセプトとしてつくっていくことが重要と認識。

また、カジノ施設は、面積的には全施設の３％だが、収益面ではＩＲ全体の半分くらいを占めるような事例もあるので、ＩＲを誘致する場合には、そういった反作用ができる限り出ないような対策を打つということに重きを置きたいと考えている。その上で、プラスを最大にしていくということで、検討を進めていきたい。

（了）